

問1 戦国時代、現在の島根県に位置する石見銀山は日本最大級の銀山として知られていました。この銀山の支配権をめぐる、中国地方を舞台に激しい抗争を繰り広げた戦国大名の組み合わせとして適切なものはどれですか。（2026年 島根公立入試 類似）

1. 尼子氏と毛利氏                      2. 武田氏と上杉氏                      3. 島津氏と大友氏                      4. 織田氏と今川氏

問2 15世紀に発生した応仁の乱以降、室町幕府の権威が衰退したことで、家臣が主君を倒したり、地方の武士が守護大名を追放したりして実権を握る事例が全国で見られるようになりました。このように、実力のある者が上の身分の者の地位を奪う社会的な風潮を何と呼びますか。（2018年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 下剋上                                      2. 尊王攘夷                                      3. 一揆    4. 版籍奉還

問3 1549年にフランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸して日本に伝えたキリスト教について、その宗派と布教を担った組織の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2017年 徳島公立入試 類似）

1. カトリックーイエズス会                      2. カトリックー十字軍                      3. プロテスタントーイエズス会                      4. プロテスタントー清教徒（ピューリタン）

問4 日本の歴史において、守護・地頭の設置や御成敗式目の制定が行われた時代（鎌倉時代）の様子を説明した記述として、ふさわしくないものはどれですか。（2018年 熊本県公立入試 類似）

1. 将軍と御家人が、土地を媒介とした御恩と奉公の主従関係を結んだ。                      2. 実力のある下の者が上の者を倒して地位を奪う、下剋上の風潮が広がった。                      3. 北条氏が執権の職に就き、幕府の政治を動かした。                      4. 元軍の侵攻に対し、九州の御家人たちが防戦にあたった。

問5 武田信玄が定めた法の中に、「喧嘩をした者は、いかなる理由によるものであっても、双方ともに処罰する」という、いわゆる『喧嘩両成敗』の規定が見られる。戦国大名がこのような厳しい規定を設けた主な目的として、最も適切なものはどれか。（2021年 沖縄公立入試 類似）

1. 家臣同士が私的な武力行使をすることを禁じ、大名の裁判権を確立して領国内の紛争を鎮めるため。                      2. 朝廷から与えられた守護としての権限を、隣国の領主に対しても示すことで領土を拡大するため。                      3. キリスト教の博愛の精神を取り入れることで、家臣同士の平穏な共同体をつくるため。                      4. 農村における生産性を向上させるために、武士が農業に専念できる環境を整えるため。

問6 戦国大名の一人である朝倉氏が定めた「朝倉敏景卿四十七ヶ条」という資料には、家臣が自らの居城以外に城を築くことを禁止する内容などが記されています。このような規定を設けることで、戦国大名が実現しようとしたこととして最も適切な説明を選びなさい。（2026年 大阪公立入試 類似）

1. 家臣が独自の軍事力を持つことを抑え、大名による領国支配を強化すること                      2. 室町幕府の権威を背景に、近隣の守護大名との同盟を維持すること                      3. キリスト教の布教を制限することで、領民の思想的な結束を図ること                      4. 朝廷の許可を得ることで、他の大名に対して官位の優位性を示すこと

問7 戦国時代の都市についてまとめられた資料において、「有力な商人による自治的な運営が行われていたこと」「種子島に伝来した鉄砲の主要な生産拠点となったこと」「千利休などの商人がわび茶の文化を完成させたこと」という3つの特徴を持つ、現在の大阪府に位置する港町はどこですか。（2023年 滋賀公立入試 類似）

1. 堺    2. 博多    3. 長崎    4. 平戸

問8 ルターが始めた宗教改革において、彼はキリスト教徒が信仰の根拠として最も重視すべきものは何であると主張しましたか。（2018年 福島県公立入試 類似）

1. 聖書    2. ローマ教皇の命令    3. 免罪符（贖宥状）    4. 教会が定めた儀式

問9 戦国時代の九州を代表する大名で、現在の府内（大分市）を拠点にキリスト教を保護し、有馬晴信や大村純忠とともにローマ教皇のもとへ「天正遣欧少年使節」を派遣した人物は誰ですか。（2025年 京都公立入試 類似）

1. 大友宗麟                                      2. 朝倉義景                                      3. 今川義元                                      4. 北条氏康

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> <b>尼子氏と毛利氏</b>	石見銀山は現在の島根県大田市に位置し、戦国時代にはその莫大な利益を求めて周辺勢力が激しく争いました。当初は出雲国（現在の島根県東部）を拠点とした尼子氏が支配を強めていましたが、安芸国（現在の広島県）から勢力を伸ばした毛利氏がこれに挑み、長期にわたる抗争の末に毛利氏が支配権を確立しました。山梨県の武田氏や鹿児島県の島津氏は、活動拠点が異なるためこの地の直接的な支配権争いには関わっていません。
問2	<b>答え 1</b> <b>下剋上</b>	室町時代中期から戦国時代にかけて、それまでの身分秩序が崩れ、実力主義の時代へと移行したことを示す言葉です。この風潮によって、守護代や国人といった下の立場にいた者が、主君である守護大名に代わって戦国大名として台頭する動きが加速しました。背景には、幕府の統制力の低下と、土地や民衆を直接支配しようとする実力重視の価値観の広がりがあります。
問3	<b>答え 1</b> <b>カトリック — イエズ会</b>	日本に最初に伝わったキリスト教は、ローマ教皇を中心とするカトリック教会の一派である「イエズス会」によるものでした。当時、ヨーロッパでは宗教改革によって新教（プロテスタント）が勢力を伸ばしており、これに危機感を抱いた旧教（カトリック）側のイエズス会が、アジアなどへの布教を通じて信者を増やそうとしていました。
問4	<b>答え 2</b> <b>実力のある下の者が上の者を倒して地位を奪う、下剋上の風潮が広がった。</b>	鎌倉時代は将軍と御家人の主従関係や、御成敗式目による武士社会の秩序が重んじられた時代です。設問にある「下剋上」は、室町時代末期から戦国時代にかけて顕著になった社会風潮であり、鎌倉時代の特徴ではありません。この時期には応仁の乱などをきっかけに幕府の権威が衰え、実力主義の時代へと移行していきました。
問5	<b>答え 1</b> <b>家臣同士が私的な武力行使をすることを禁じ、大名の裁判権を確立して領国内の紛争を鎮めるため。</b>	中世の武士社会では、自らの権利を実力で行使する「自力救済」が一般的でしたが、これは領国内の混乱を招きました。戦国大名は喧嘩両成敗の原則を導入することで、家臣が勝手に争うことを禁じ、すべての紛争解決を大名の裁定に委ねさせることで、強力な領国支配を実現しようとした。
問6	<b>答え 1</b> <b>家臣が独自の軍力を持つことを抑え、大名による領国支配を強化すること</b>	戦国大名は分国法を通じて、家臣たちの勝手な行動を厳しく制限しました。朝倉氏の事例のように、居城以外の城（支城）を勝手に持たせないようにすることは、家臣が独立した勢力になることを防ぎ、大名の支配下に置くという目的がありました。このように、大名への忠誠を誓わせ、領国内の秩序を保つことが分国法の大きな目的です。
問7	<b>答え 1</b> <b>堺</b>	戦国時代の堺は、会合衆（えごうしゅう）と呼ばれる有力な商人が中心となって自治的な町運営を行っていました。堀を巡らせて自衛を行うほど経済力と組織力を持っており、鉄砲の生産や茶の湯といった文化の面でも、日本の歴史上重要な役割を果たしました。
問8	<b>答え 1</b> <b>聖書</b>	ルターは、教会の権威や儀式、ローマ教皇の命令よりも、神の言葉が記された「聖書」こそが信仰の唯一のよりどころであると主張しました。彼はラテン語で書かれていた聖書をドイツ語に翻訳し、一般の人々が直接聖書の内容を理解できるように努めました。これは、教会の形式的な教えから脱却しようとする背景から生まれた考え方です。
問9	<b>答え 1</b> <b>大友宗麟</b>	大友宗麟は豊後（大分県）を本拠地とした有力な戦国大名です。フランシスコ・ザビエルの布教を認めて以降、キリスト教を厚く保護し、海外貿易を積極的に行いました。1582年には、伊東マンシヨら4人の少年をローマへ派遣する使節の送り主の一人となりました。